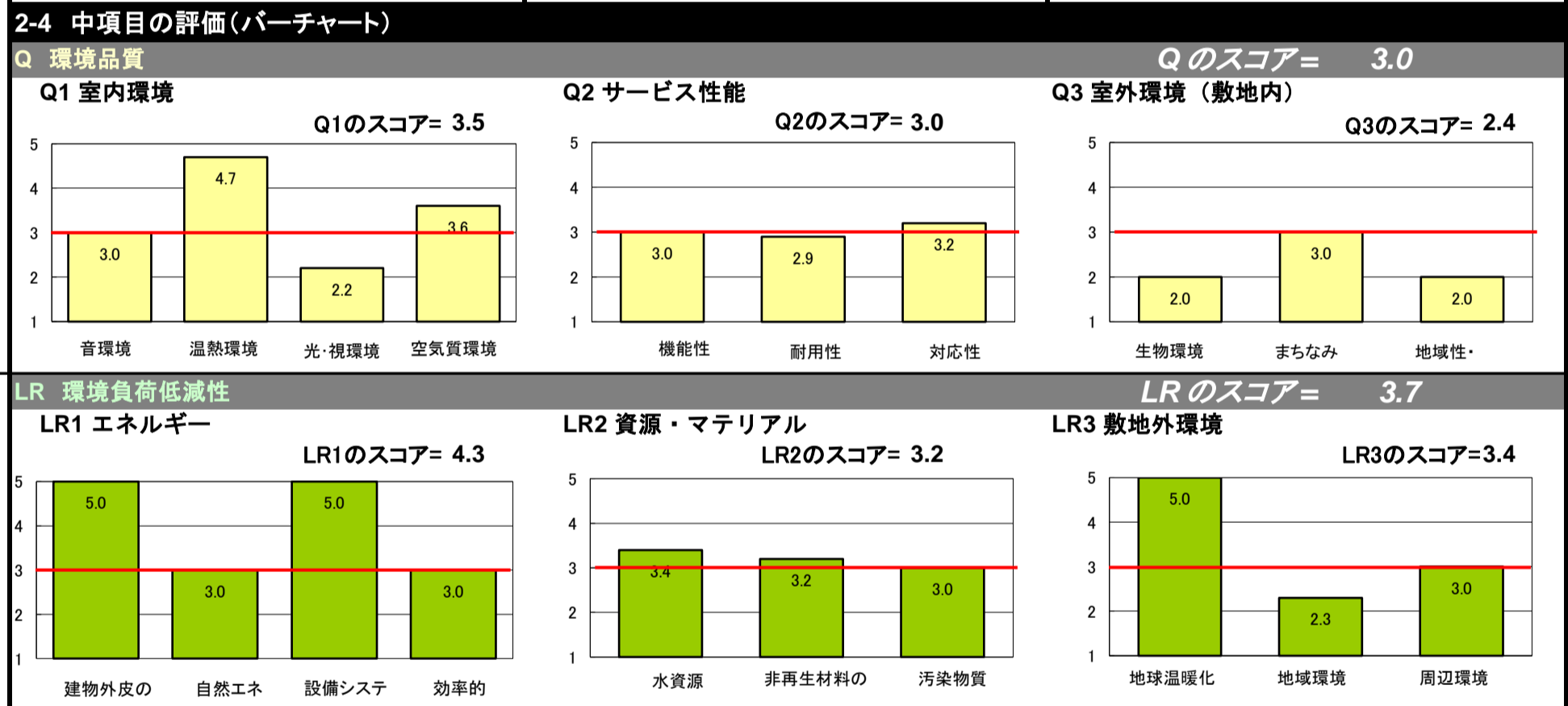
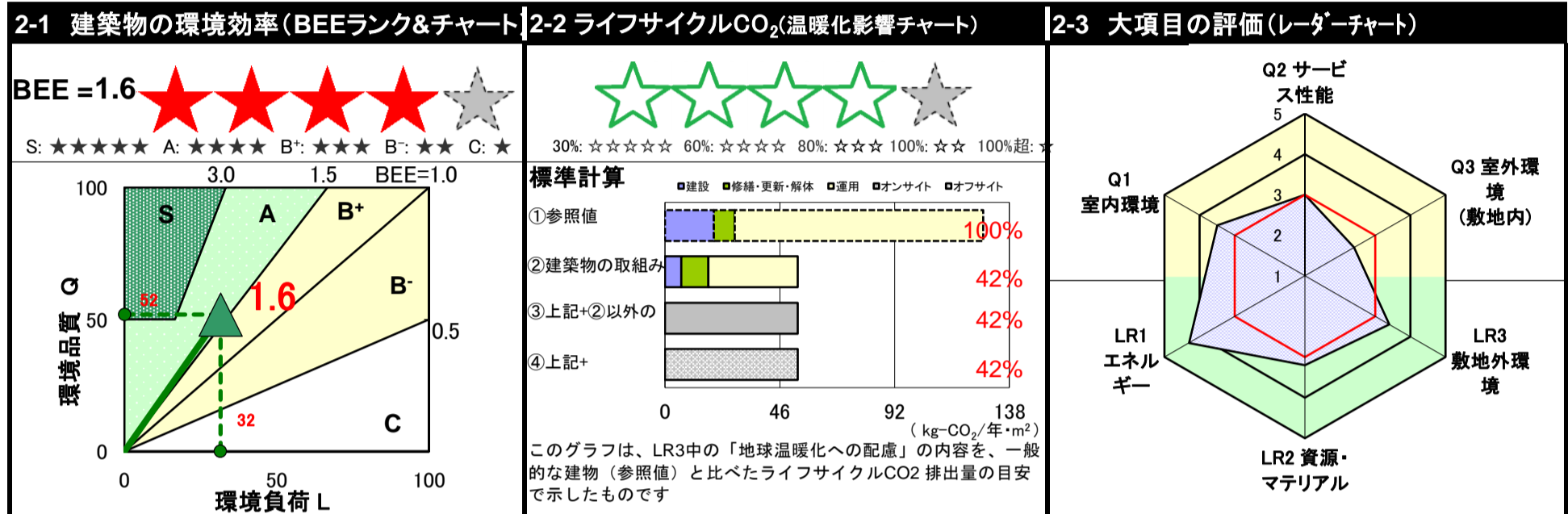


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)刈谷市神田町一丁目計画	階数	地下1階地上14階
建設地	愛知県刈谷市神田町一丁目45番、63番1、185番4	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	663 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2023年7月12日
敷地面積	6,203 m ²	作成者	野田 和徳
建築面積	1,767 m ²	確認日	2023年7月12日
延床面積	14,221 m ²	確認者	野田 和徳



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>5.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>22.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)刈谷市神田町一丁目計画

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									3.0	
Q1 室内環境									3.5	
1 音環境									3.0	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									3.0	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									-	
2 温熱環境									4.7	
2.1 室温制御									5.0	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									5.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									2.2	
3.1 昼光利用									3.0	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									3.0	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気環境									3.6	
4.1 発生源対策									4.0	
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気									3.0	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									-	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									3.0	
1 機能性									3.0	
1.1 機能性・使いやすさ									3.0	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									3.0	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									3.0	
2 耐用性・信頼性									2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									3.2	
1 躯体材料の耐用年数									5.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									2.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									3.0	
2.4 信頼性									2.4	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり		②	階高を2.9m以上、3m未満としている	-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1	階高のゆとり			-	-	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00		-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	3.0	0.17		-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	3.0	0.11		-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.11		-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.22		-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22		-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.7
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=	3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの効率化			BEI=0.71	3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	-	-		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	1.0	-		-	-	
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	1.00		-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水こまの採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.2	0.63		-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減		② 独自	高炉セメントB種を場所打ち杭のコンクリートに採用	-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	5.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	4.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1	消火剤			-	-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率42%	-	5.0	0.33		-	-	5.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.3	0.33		-	-	2.3
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自		-	-	-		-	-	
3	悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)刈谷市神田町一丁目計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:22%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)刈谷市神田町一丁目計画

計画上の配慮事項	
総合	華美な高級感ではない<品の良い感性>に呼応するデザイン、シンプルで長い間大事に愛着の感じる<気品を感じる高級感>というテーマのもと、色褪せることのない新しさと普遍的な<気品と品格>を纏い、若いターゲット層の<美的感性>に呼応するスタイリッシュなマンションデザインとする
Q1 室内環境	建築基準法等の求める必要最低限の性能を確保する
Q2 サービス性能	維持管理しやすい建材を採用し、清掃・点検等の維持管理機能の確保に努める
Q3 室外環境(敷地内)	日常の中で立ち止まる場所、歩きながら暮らしのリズムを整える場所を提供するアプローチ空間とする
LR1 エネルギー	建築基準法等の求める必要最低限の性能を確保する
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない材料を使用する
LR3 敷地外環境	駐輪場をを住戸数比200%確保
その他	